令和５年度 第３回 中和地区３市１町障害者自立支援協議会 就労支援部会　議事録

日　　時：令和５年９月２１日（木）　１４時００分～１６時００分
場　　所：香芝市総合福祉センター２階・会議室１
出席団体：大和高田市・香芝市・葛城市・ハローワーク・明日香養護学校・
西和養護学校・生活支援センターブリッジ・しぇ～く・葛城市社協・
おかわり・夢スペースかぐや・高田園・えいぶる・アカデミア・
えん高田駅前作業所

①会長挨拶

②体験会の振り返り

・当事者が少なく、支援者等関係者が多かった。当事者が参加しやすい仕組みを考える必要があり、交通アクセス・送迎サービスを含め、周知の方法が課題である。
・支援学校の１年生の参加者が多く、今後の参考になったのでは。「学校行事がひと段落したら事業所見学に行きたい」という生徒がいた。
・今後は他の部会（放デイ等）との連携も必要か。
・熱心に見学されるかたが多かったので、次の人の待ち時間が発生していた。スクリーンで映像を流したり、パンフレット置き場を作ることで解消が可能か。
・行政相談コーナーの周知・充実が必要。
＊その他、別紙アンケート集計参照

③就労継続Ｂ型事業所の就職活動の実践

＊別紙資料参照

④実践発表を受けてのグループワーク

【テーマ】
アセスメントについて

【目　的】
立場が異なる各支援者間の課題・認識等のすり合わせ

【意　見】
・養護学校でのアセスメントの方法と情報の蓄積について、アセスメント書類を直Ｂに活用する場合、行政の決定に際して重要な資料となる。従来は今の流れになるまでに時間がかかっていたが、１つの自治体が受け入れてくれたことで、横のつながりで書類を通した決定が広がるようになった。
・就労支援にかかるアセスメントついて、当事者が就労したいと思うタイミングと、支援者側から見て用意が整ったと感じるタイミングの違いがあり、声掛けのタイミングが難しい。反対に、支援者側では就労できると判断しても、本人がゆっくり準備をしている

ようなこともある。

・Ｂ型事業所の中では、モチベーションが上がってこないと就職はなかなか難しい。また、就職をすることがどれだけのことなのか、お金をもらうといったことがどういうことか、集団行動の向き不向きを本人・支援者が把握していないと、マッチングが上手くいかない。また、休まずに出勤できるのかどうか、仕事が真面目にできるのかどうかというマッチングと、もう１つは企業側が本当にその人に向いた仕事を提供できるかどうかというマッチングが必要なのではないか。なお、養護学校の出身者は、学校卒業後に事業所で訓練を受けて、大きく成長することがあり、常に本人の最新の状態を見ていく必要がある。

・障害年金を貰っているかいないかが、就労に大きな影響を与えることがある。貰っているかたは体調に合わせて労働時間を調整できる余地があるので、比較的スタートしやすい。・Ｂ型の授産作業だけではみなさんが満足されるような工賃を受けることはできない中で、就職によって得られる賃金、もらっている年金というのは大いに注目していかなければならない。

・ハローワークでの就労相談について、当事者に関する情報が集約されていれば、ハローワークが相談者を次につなぐ際に連携しやすいと思うが、情報がそろっていないと最初からの聞き取りになってしまうので、事前の情報（本人の能力・適正）の要約が必要だと考える。

・いろいろな実践を積み重ねる中で、当事者と会話をして、振り返って、納得感を得ながら物事を進めることがアセスメントにおいて大切な要因なのではないか。反対に、納得感を得られていないといい形での支援を進めていけないので、新ためてそういう部分を丁寧にしていくことの必要性、支援者の役割を感じた。

・就労を目指すかたをどこにつなぐかによって行き先が変わってしまうということがあるのではないか。そのためには情報整理をしていくことが大事と考える。

・就労のタイミングについて、働いた経験のある当事者のかたからの情報の発信の機会が身近にあれば、支援者の言葉よりも説得力があるのではないか。

・学校と就労支援事業所とのアセスメントの違いを感じた。学校では、休まずに通学できるのか、集中して取り組めるのか、あいさつなど基本的なことなど、本人の特性をどう理解して支援するかを大切にしている。就労支援事業所では、より一般就労を向けたアセスメントになっていると感じた。

・マッチングでは、①本人が就労し適しているか、②企業の仕事が本人に合うかどうか企業の状況を知る。これらを踏まえた上で、障害者職業センターの職業評価を活用し、事業所での評価と職業センターからの評価をすり合わせた上で、図って行くことが大切。

・アセスメントを図る上で、必ず職場実習を行っている。

・集団行動、個人行動どちらが得意かを把握した上でマッチングしないと、ミスマッチが生じてしまう。

・働く動機、ライフステージにおいての変化、仕事・生活に対する価値観など、障がいのある方との対話を重ね続けて行くことで、本人が決断できるサポートを行うこと自体がアセスメントと考えられる。

以上